

新しい教育への移行（2）

紫陽花が美しく彩りを添える季節を迎えました。運動会から約1か月が過ぎ、達成感を得た子どもたちが、それぞれの学年・学級の活動に一生懸命取り組んでいる姿をよく見かけるようになりました。

4月26日発行の『一期一会』第4号で、2020年4月からスタートする新学習指導要領のねらいや今年度からの移行措置についてお伝えをしました。今回はその第2弾として、道徳と外国語について取り上げることにします。

特別の教科 道徳

今年度4月から、小学校の道徳の時間が「特別の教科 道徳」となりました。教科化によって大きく変わることが二つあります。それは教科書が配付されたことと評価が行われることです。

「特別の教科 道徳」では自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を行います。子どもたちがこれまでの生活経験からは知ることのできなかつたことに気付いたり、対話によって新しい考えを知ったりし、矛盾や葛藤を感じながら自分でじっくり考える授業となります。教材をただ読むのではなく、「考えて議論する」という授業を通じて道徳心を養うことも目指していきます。

評価は、他の児童との比較ではなく個人内評価を行っていきます。昨年度までの「道徳の時間」も、子ども一人一人の道徳的価値を深めることを大切にして取り組んできた点は同じです。評価は、数値ではなく記述式で行います。授業はこれまでと同様に年間35時間、ほぼ週に1回です。

本校では、子どもたちが自立して他者と共によりよく生きることをめざし、引き続き教育活動全体を通して道徳教育を進めていきます。また、体験的な学習や問題解決的な学習など、多様な指導方法を取り入れた授業も行っていきたいと考えています。

外国語〔英語〕教育

2020年4月から完全実施となる新学習指導要領では、小学校において中学年で外国語活動を、高学年で教科として外国語科が導入されます。これまで、5・6年生において年間35時間の外国語活動を行ってききましたが、改善の方向性として次の2点が示されました。

- ① 中学年から聞くこと及び話すことを中心とした外国語活動を通じて、外国語に慣れ親しみ、外国語学習の動機付けを高めること。
- ② 高学年から発達の段階に応じて段階的に文字を読むこと及び書くことを加えて総合的・系統的に扱う教科学習を行うこと。

このような方向性をめざすことから、中学年には年間35時間、高学年には年間70時間の授業時数が当てられることとなります。今年度・来年度の2年間は移行期間として、5・6年生は新たに年間15時間を加え50時間を確保し、外国語活動の内容に加え外国語科の内容も扱います。3・4年生は、新たに年間15単位時間を確保し、外国語活動を実施することとなります。

本校では、ALTのブリトニー先生とのTT授業を中心として、英語嫌いを子どもたちの中に生み出さないように、積極的に楽しく英語にふれ、慣れていく機会を増やしていくことを大切にしたいと考えています。